- 1. コンピュータシステム
- 1.3ソフトウェア (バックアップ)

問題1 【解答:ウ】

バックアップとは、ファイルの内容をそのまま複写 (コピー) して筒じ内容のファイルを作っておくことである。バックアップは、「ファイルが記録されている記憶装置に障害が発生した (HDD などが故障した)ときに、ファイルの内容を復元 (リストア) する」旨的で行うものである。

ア:分散システムの透過性の目的である

イ:ストライピング(RAID0)の目的である。

エ:ファイル内容の暗号化の目的である。

問題2 【解答:ア】

- ・アーカイバ
 - : 複数のファイルを一つにまとめたり、元に戻したりするソフトウェアである。バックアップを行うためのツール(ソフトウェア)として利用される。(正解)
- ・オフィスツール
 - :オフィス(事務所)で使われるソフトウェアの総称である。
- ・ディスパッチャ
 - : タスクスケジューリングで、実行できる状態(実行可能状態)のタスクの中から実行するタスクを 選択して、CPUを割り当てるプログラムである。
- ・ミドルウェア
 - : OSと応用ソフトウェア(アプリケーションソフトウェア)の中間に位置付けられる、複数の応用 ソフトウェアが共通して利用するOSの基本機能を提供するソフトウェアである。

問題3 【解答:イ】

- ア:どこでも好きな場所に保管すると、必要な時に最新のバックアップファイルがどこかにあるかを素早く見つけられなくなるので、適切ではない。
- イ:バックアップファイルには、 重要なデータも保管されているので、 第三者に が 手に持ち出されることがないように、 入退管理をしている部屋で保管することは適切である。(正解)
- ウ:バックアップファイルを売のファイルと簡じ部屋に保管しておくと、火災などで同時に焼失してしまう危険性があるので適切ではない。
- エ:外部の人間でもすぐに運び出せるような場所では、重要なデータを第三者に勝手に持ち出される危険性があるので、適切ではない。

問題4 【解答:ア】

ア:バックアップ処理中に業務処理が行われてファイルの内容が更新(変更)されると、データに矛盾が生じる危険性がある。このため、両方の処理が重ならないようにスケジュールを立てるほうが安全である。(正解)

イ:同一記憶媒体にバックアップデータを取ると、記憶媒体が故障したときに、バックアップファイルも 読めなくなる。

ウ:バックアップデータは、版番号などを付けて複数世代にわたって管理するほうがよい。

エ:バックアップでは基本的に大量のデータを全件複写するので、順次アクセスが可能な記憶媒体を利用 するほうが効率は良い(ランダムアクセスが可能な記憶媒体にする必要はない)。

問題5 【解答:イ】

三つのバックアップファイルの違いは、次のとおりである。

- ・フルバックアップ
 - :すべてのデータを複写する。
- · 差分バックアップ
 - :前回のフルバックアップ以降に更新されたデータを、すべて複写する。
- ・増分バックアップ
 - :前回のバックアップ以降に更新されたデータだけを複写する。

そのため、「当日1日のフルバックアップファイル」に、1日のフルバックアップ以降に更新されたデータがすべて記録されている「当月20日の差分バックアップファイル」の内容を反映した後、それ以降(21日~24日)に更新されたデータを記録した「当月21日~24日の増分バックアップファイル」の内容を反映した。